

県外派遣報告書

報告者 川井 剛

- 1 大会名 第55回九州中学校バスケットボール競技大会
- 2 期 日 令和7年8月8日(金)～8月9日(土)
- 3 会 場 久留米アリーナ／みづま総合体育館
- 4 担当試合 Game① 8日(金) 女子1回戦 三股一折尾 U1
Game② 8日(金) 女子2回戦 本渡一大分 U1
Game③ 9日(土) 男子準決勝 中村三陽一与勝 CC

5 振り返り

【Game①】○チーム情報の共有（ビッグマンに対する見方）

○ベーシックなメカニクスの確認と、クルーワークの確認

○注目度の高いゲームであること

スカウティング通り、ビッグマンに対する目の当て方がキーとなるゲームだった。笛が軽くなならないように自分のエリアのプレーを長く捉えながら、イリーガルなものにコンスタントに笛を入れていくことができた。ビッグマンに対する見方についても、始まりから終わりまでしっかり見届けて判定をすることができた。

3Qの終わりにコーナーでの3Pショットがあり、Lから開いてプライマリーとしてNCLを判定したが、映像を振り返るとファウルコールがマッチしていると感じた。同のようなケースが前に2度起きていて、全てNCLだったのも頭にあったが、より“明らか”と言えるものにファウルの判定をすること、ゲームの流れとしても追い上げムードだった負けているチームのショットだったので、コールしたかったケースだった。

【Game②】○チーム情報の共有。（ドライブプレーの見方、協力）

○ベーシックなメカニクスの確認（helpDF、リバウンドカバー）

スカウティング通り、ドライブプレーが多い展開で、早いゲームテンポの試合となった。プライマリーのレフェリーが自分のエリアで起こることをしっかりと判定することができた。特に、リードにいる時のヘルプDFについては大きく見ながら始まりから終わりまで捉えることができ、落ち着いたプレゼンテーションにつなげることができた。

突発的なコンタクトが数回起こり、現場ではNCLと判定していたが、映像を振り返ると、全てがNCLではなく、イリーガルなコンタクトとしてコールをしてもいいものもあったように感じた。そのような時のポジションはプレーに近いことが多く、もっと広くプレーをとらえて、いろんなプレーへの準備が必要だったと感じた。

【Game③】○お互いに話をしながらゲームを進めていきたいという確認

○ラフになりそうな要素があるプレーを確認

クルーそれぞれがよい集中力でゲームに臨んでいくことができた。余計なダブルコールがほとんどなく、明らかなものに笛が入っていき、ゲームがスムーズに進んだ。

クロックの修正もクルーで確認しながら進められた。アイコンタクトやインターバル中の会話を通して、お互いの基準を擦り合わせながら進めることができた。

ケースとして、エッジのショット後に起こったタップショットへのファウルについて話題になった。トリプルで鳴り、エリアであったLがレポートをした。クルーでの確認では、Lは直前までエッジのショットを見ているので、その後のリバウンドタップショットに無理して判定しなくていいのでは？という見解となった。そして、そのファウルをおかしたDFはややCサイドから飛び込んできていたので、より長くDFを捉えていたCがレポートしてもいいのではないかという見解となった。エッジの見方の分担から、その後のリバウンドカバーまで、県内でも丁寧に確認したいと感じた。

6 所 見

6月の九州高校総体以来の県外派遣となりました。6月に力不足を痛感した『判定力』という視点に対して、WEB研修で教えていただいた【明らかな黒をコールし続けること】というテーマを掲げて、県内大会でもシンプルなコーリングを意識して取り組んできた大会でした。【明らかな黒】をコールし続けるために、もう一度レフェリーDに立ち帰り、自分のプライマリーで起こる出来事を長く捉える訓練をしてきたおかげで、なあなあにせずに、コンタクトの基準を示しながらゲームを進めることができた実感がありました。

また、2日目にCCの割り当てをいただきました。全中の研修で講師の方がおっしゃっていたことで、【4Qの大事な場面で一番いいクルーワークを発揮する】【大事な時間までにクルーになれるか】という言葉を意識して、プレカンからゲーム中のコミュニケーションにトライしました。初めて組む3人でしたが、お互いの考えやゲーム中に感じていることを出し合い、方向性を擦り合わせながらゲームを進めることができました。

6月の九州高校で悔しい思いをして、新たなテーマを掲げて取り組んだ2ヶ月でした。その中で、全中研修での学びもあり、自分の成長と手応えを感じることができました。しかし、まだまだ突発的な出来事への対応や、予測や準備の足りないシーンがあり、CCとしてゲームをまとめるためには色々な部分への気づきやアプローチが今後必要だと感じました。来たる全中に向けて、ゲームを吹く機会はないので、映像の振り返りを通して研鑽を積んでいきたいと思います。

福岡県の皆様におかれましては、大会運営面でもお忙しい中に、撮影の補助や控え室での心配りなど、大変お世話になりました。福岡県のB級の方々も多く審判主任に入っておられて、ご自身の言葉でゲームの振り返りを堂々としている姿に、鹿児島県も負けてられないと感じました。一方通行に受け取るだけの研修ではなく、相互に伝え合う研修の大切さを感じました。

最後になりますが、本大会への派遣をご快諾いただいた原田審判長はじめ県協会の皆様に感謝申し上げ、派遣のご報告といたします。ありがとうございました。